

B 歯髄疾患に用いる検査法

種類

- ・問診
- ・視診
- ・触診
- ・打診
- ・透照診
- ・インピーダンス測定検査
- ・温度診
- ・歯髄電気診
- ・動揺度検査
- ・麻酔診
- ・待機的診断
- ・エックス線検査
- ・くさび応力検査
- ・化学診
- ・切削診

問診

診断のため患者から医療面接を通して情報を得ること。また、医療面接において病歴聴取とともに、信頼関係の確立も行う。

1 主訴

来院した動機、最も苦痛・不快を訴える症状のこと。患者の言葉で診療録に記載する。

- 例：前歯が冷たいものでしみる／右上奥歯で咬めない

◆ 注意 ◆
希望は主訴ではない。
(入れ歯を入れたい／自費診療を希望するなど)

2 現病歴

痛みの発生から現在に至るまでの経過、すなわち、主訴についての経過のこと。

- 例：1か月前から右側下顎白歯部で咬合時に痛みが生じ、3日前からは拍動性の自発痛と激しい咬合痛が生じているという。

3 既往歴

現在までにかかった疾患のこと。全身的な既往歴（過去および現在も罹患している疾患、感染症の有無、薬剤アレルギーの有無など）と、患歯の既往歴（治療の有無、時期、内容および局所麻酔薬使用の有無など）がある。

視診 (図 4-1A, B)

術者が実際に直視あるいはミラーを使ってわかること。

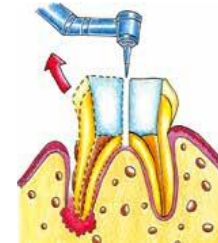


A：多くの歯の歯頸部に齧蝕を認める。また、コンポジットレジン修復の周囲にも二次齧蝕を認める



B：外傷による上顎左側中切歯の歯冠破折。露髄を認める

図 4-1 視診



A



B：49歳の女性。下顎左側第一大臼歯近心舌側部に破折線を認め、近心舌側の根管壁は穿孔している



C：同エックス線写真。分岐部病変を認め、近心根根尖部に透過像を認める。破折線や穿孔部は確認できない(初診時)

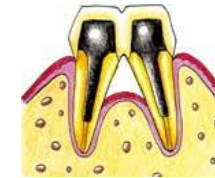


D：1か月後のエックス線写真

図 13-6 ヘミセクション



A①



A②



B：42歳の男性。下顎左側第一大臼歯の舌側は穿孔しており歯肉が増殖している(ミラー像)



C：歯根分離法実施後の口腔内写真(ミラー像)

図 13-7 歯根分離法